

自治体支援フォーラム ～インフラ老朽化時代におけるレジリエントな郡山を目指して～ 開催結果

- 6月2日（金）、個別の自治体を支援する国民会議の新たな取組のモデル実践として、**全国で初めて出前形式でのフォーラムを郡山市で開催**した。
- 今後、本フォーラムでの議論を踏まえて、新技術の導入に向けた現場実証や地域での産学官民の取組の深化などの**郡山市での新たな取組につなげる**とともに、**優良な取組の他地域への展開を検討**する。

開催概要

〈プログラム〉
郡山市長挨拶、趣旨説明、現地視察、班別討議、各班発表、総評、総括

〈参加者〉
74名（メンター4名、自治体23名（郡山市他6市町村、福島県）、民間企業等38名、国土交通省9名）

テーマ	討議の結果
個別施設計画の計画策定と実施（橋梁）	より良い計画の策定・実施の重要性を確認し、管理区分に応じたモニタリング・措置の明確化を今後郡山市で進めていくこととなった。管理区分については、施設の重要度と劣化度に加え、劣化の進行度合いの反映を検討することとなった。
個別施設計画の計画策定と実施（道路舗装）	異常発見の質の向上や措置の刈刈の重要性について確認し、今後、予防保全を導入した取組の具体化を行うこととなった。特に、異常発見の質の向上については、そのために必要となるデータの蓄積・活用について検討することとなった。
道路維持補修業務における地域建設業の連携やノウハウの活用方法の模索	テーマについて幅広く議論し、市の15地区に分けたポイントを含む補修の業務委託について掘り下げた。その上で、有償ボランティアと連携した包括的民間委託の制度のあり方などについて議論し、今後、具体化を図ることとなった。
市民参画の可能性	市の取組を共有した上で、通報・点検・簡易補修等に市民が参画する程度について他の事例も参考にしながら検討する必要があることを確認した。その上で、できることから少しずつ市民参画の更なる推進を目指すこととなった。



郡山市長挨拶 品川 万里 氏

○従来型のメンテナンスだけではなく、デジタル技術、AI技術、IoTをフルに使ってやっていくべき。

○本日の討議の結果を有効なものにしていきたい。



現地視察（大黒橋）



班別討議

総評（メンター）

日本大学 教授 「郡山市には産学官民でメンテナンスに取り組むポテンシャルがある。今後の取組につなげてほしい。」
岩城 一郎 氏

会津大学 教授 「データ収集を行い定量的な分析を行う必要がある。石橋 史朗 氏 データ収集において市民の力を借りてはどうか。」

東日本高速道路(株) 「しっかりとした組織づくりもセットマネジメントで七五三野 茂 氏 重要な観点。郡山が先頭を走ってほしい。」

富山市 植野 芳彦 氏 「このような全国初の取組に真摯に取り組まれた郡山市の方々に敬意を表する。是非ともメンテナンスに関して、郡山市と連携した取組を行いたい。」